

十六「エリワン」好調

カード利用件数1.3倍に

十六銀行グループの十六カード(岐阜市神田町、高橋宗男社長)が展開する地域優待サービス「エリワン」が好調に利用を伸ばしている。昨年8月16日のサービス開始から1年で、エリワンが利用できる店舗での十六カードの利用件数が前年と比べて約1.3倍に伸長した。グルメ飲食店をはじめパートナ企業の実績を図っていることも要因とみられ、地域内消費の促進にもつながっている。

(山田孝二)

参加30社860店に拡大

エリワンは「東海エリワン」が約21万5千件だったリ・ナンバーワン・カードサービスの略。期間は約27万3千件と

地元のパートナ各社なり約1.3倍に拡大。利用金額も前年と比べて約1.2倍に増や割引などが受けられる東海地区初のサービス。

2020年の東京五輪を控え、訪日外国人の増加が見込まれること

エリワン利用可能店の増加が見込まれること、各店舗でカードが利用しやすい環境

が一段と進んでいるほか、利用店舗の数、種類とも充実が進んでいることが要因とみられる。

開始時はパートナ企業10社の約300店舗でのサービスだったが、昨年11月からバローグループ、今年7月から飲食業9社が加わるなど利用できる店舗を拡大。さらに9月16日から旅行、菓子、宝石などの7社が加わり、30社約860店舗に広がっている。

十六カードの担当者は「日用品など身近な店舗で利用できることも好評を得ているので」と話している。今後、ニーズの高いグルメ店舗などを中心にパートナ企業の拡大を図るといふ。